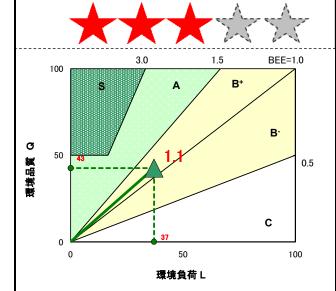
【八SBEE 熊本《新築》【性能表示】

1-1 建物概要				1−2 外観
建物名称	東横INN熊本空港	階数	地上10階、地下0階	
建設地	熊本県菊池郡大津町大字室字桜山1509番1,2,3,1512番1,3,4	構造	2種類以上	
用途地域等	準工業	平均居住人員	282 人	
省エネ:地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	飲食店,ホテル,	評価の段階	竣工段階評価	and the state of t
竣工時期	2025年5月 竣工	評価の実施日	2025年6月27日	THE THE PERSON OF THE PERSON O
敷地面積	5,800 m ²	作成者	岩下	
建築面積	812 m ²	確認日	2022年7月7日	****
延床面積	4,514 m ²	確認者	栗野	an exiterities

2 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 1.1

■BEE(環境効率) = Q(環境品質) L(環境負荷)

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値			
		ат іш	BEE値	Q値		
S	****	素晴らしい	3.0以上	50以上		
Α	****	大変良い	1.5以上3.0未満	_		
B ⁺	***	良い	1.0以上1.5未満	-		
B ⁻	**	やや劣る	0.5以上1.0未満	_		
С	*	劣る	0.5未満			

■ライフサイクルCO2 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	****
30%超60%以下	***
60%超80%以下	***
80%超100%以下	**
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

77%

3	熊本	県重原	点評価	Б結果
---	----	-----	-----	------------

■ 重点事項総合評価

評価点

76

6







評価点

■熊本県重点評価基準

80点以上100点未満

40点以上60点未満

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進 【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

87.7 62.5
 判定値(評価点)
 ランク表示

 100点以上
 6
 6
 6

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

72.5

60点以上80点未満 🔥 👧 👧

【重点事項4】循環型社会の実現

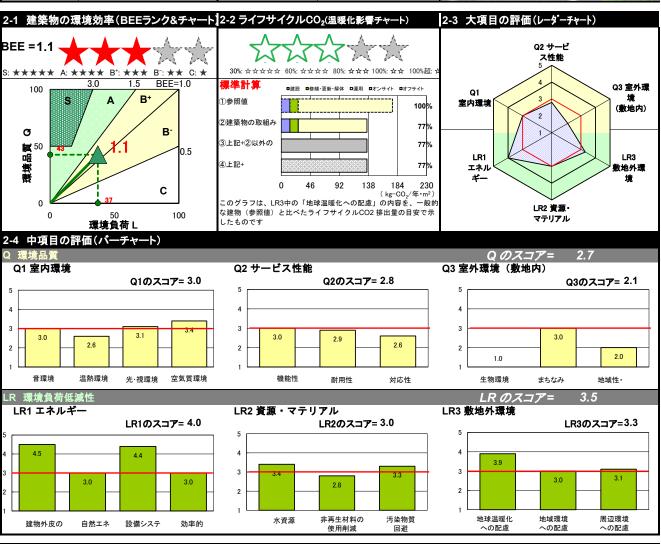
71.9

40点未満 ※評価点は、100点以上が推奨です。

▮評価結果

「集)2016年版 □使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)







- ■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
- ■C: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
- ■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと ■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
- ■LCCO2の算定条件等については、「LCCO2算定条件シート」を参照されたい

	_	<u> </u>	竣工段階	⇒Q1~Q3シートやLR1~LR3シートにおける					
建項	Į į			環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
1 🗷			境品質			0.40		IN SA	2.7 3.0
1 👚	環均 1.1	室内縣	音レベル		2.6 3.0	0.15	3.2	1.00	3.0
	1.2	連音 1	開口部遮音性能	遮音等級T-2以上を使用	3.0 3.0	0.40 0.97	3.6 5.0	0.40	
		3	界壁遮音性能 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	0.03	3.0 3.0	0.30 0.20	
-	1.3	4 吸音	界床遮音性能(重量衝撃源)		1.0	0.20	3.0 3.0	0.20	
2 温		室温制			2.7 3.3	0.35	2.6 3.0	1.00 0.50	2.6
		2	室温 外皮性能		3.0 3.0	0.38	3.0 3.0	0.57	
		3 湿度等		ゾーン別で冷・暖房切替可能	4.0 1.0	0.37	1.0	0.20	
3 光	· 模	空調力			3.0 2.8	0.30	3.0	1.00	3.1
1	3.1	昼光和	昼光率	ロビー: 4.16%、客室#04(D): 1.67%	4.1 5.0	0.35 0.56	4.2 5.0	0.30	
L			方位別開口 昼光利用設備		3.0	0.44	3.0	0.40	
		グレア 1 照度	对策 昼光制御		1.0	1.00	3.0	1.00	
	3.4	照明制	自御		3.0	0.14 0.23 0.25	3.0	0.15 0.25 1.00	
		発生派 発生派	(対策 化学汚染物質	天井裏を含むすべてにF☆☆☆☆を使用	3.5 4.0 4.0	0.50	3.3 4.0 4.0	0.63	3.4
j.	4.2	換気	換気量	ATTECHUT - YELL HARREEM	2.0 3.0	0.30	2.3 3.0	0.38	
		2	自然換気性能 取り入れ外気への配慮		1.0	0.50	3.0	0.33	
Ţ.	4.3	運用管	F理 CO2の監視		4.8	0.20	1.5	-	
		2	喫煙の制御	共用部は茶煙、客室は喫煙階と茶煙階で分離、 壁は天井裏まで達せしめる。	5.0	0.97		-	
		ピス性 生	it .		3.0	0.30	3.0	1.00	2.8
	1.1		上・使いやすさ 広さ・収納性		3.0	0.40	3.0 1.0	0.60	
		3	高度情報通信設備対応 パリアフリー計画	LAN配線 : カテゴリー5e(1Gbps)	3.0	1.00	5.0	0.50	
	1.2	-1	・快適性 広さ感・景観		3.0 3.0	0.30	3.0 3.0	0.40 0.50	
		3	リフレッシュスペース 内装計画		3.0	0.97	3.0	0.50	
	1.3	維持管	理 維持管理に配慮した設計		3.0 3.0	0.30 0.50		-	
		2	維持管理用機能の確保 性		3.0 2.9	0.50		-	2.9
1	2.1	- 1	免震・制震・制振 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0 3.0	0.50		-	
-	2.2	部品・	免震・制震・制振性能 部材の耐用年数		3.0 3.0	0.20		-	
		2	躯体材料の耐用年数 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20		-	
		3 4 5	主要内装仕上げ材の更新必要間隔 空調換気ダクトの更新必要間隔 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.10		-	
L	0.4	6	主要設備機器の更新必要間隔		3.0 3.0 2.6	0.20		-	
	2.4	信頼性	空調·換気設備 給排水·衛生設備		1.0	0.20		-	
		3	電気設備 機械·配管支持方法		3.0	0.20		-	
3 対	店包	5生・更新	通信·情報設備		3.0 2.9	0.20	2.4	1.00	2.6
	3.1	空間の 1	からい 階高のゆとり		2.2 1.0	0.02	1.8	0.50	
H	3.2	荷重σ	空間の形状・自由さ	レストランの壁長さ比率:0.25	4.0 3.0	0.40	3.0 3.0	0.40	
	3.3)更新性 空調配管の更新性		3.0 3.0	0.96 0.20		-	
		3	給排水管の更新性 電気配線の更新性		3.0 3.0	0.20 0.10		-	
			通信配線の更新性 設備機器の更新性		3.0 3.0	0.10		-	
		環境(バックアップスペースの確保 放地内)		3.0	0.20	-	-	2.1
2ま	ちな	み・景	県全と創出 観への配慮		1.0 3.0	0.30		-	1.0 3.0
	3.1	地域性	ニティへの配慮 とへの配慮、快適性の向上		2.0	0.30		-	2.0
3 1		(0)	3温熱環境の向上 環境負荷低減性		2.0	0.50		-	3.5
1 3	i fin /	ルギー 小皮のI	施負荷抑制	BPIm= 0.85	4.5	0.40	-	-	4.0
3 BR		システム	ドー利用 Aの高効率化	[BEI][BEIm] = 0.73	3.0 4.4	0.10		-	3.0 4.4
4 X	4		E宅以外の評価 モニタリング		3.0 3.0 3.0	0.20 1.00 0.50		-	3.0
		4.2	運用管理体制 宅の評価		3.0	0.50		-	
		4.1	モニタリング 運用管理体制			-		-	
		·マテ!			3.4	0.30	-	-	3.0
22 資	1.1	節水	リ用・雑排水等の利用		3.0	0.40		-	
1 *		1	雨水利用システム導入の有無 雑排水等利用システム導入の有無	井水を利用	4.0 3.0	0.70 0.30		-	
1 *	_		原の使用量削減		2.8 2.0	0.60		-	2.8
2 非	再生	材料的	門量の削減					-	
2 非	再5 2.1 2.2 2.3	材料包 既存到 躯体和	整築躯体等の継続使用 材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0 3.0	0.20		-	
2 非	平 2.1 2.2 2.3 2.4 2.5	材料使 既存建 躯体材 躯体材 持続可	登築躯体等の継続使用 材料におけるリサイクル材の使用 料以外におけるリサイクル材の使用 料以外におけるリサイクル材の使用 「能な森林から産出された木材		3.0 3.0 3.0 2.0	0.20 0.20 0.10		-	
2 非	2.1 2.2 2.3 2.4 2.5 2.6	材料包 既存到 躯体材 排続可 部材の	■策躯体等の継続使用 押料におけるリサイクル材の使用 料以外におけるリサイクル材の使用 開始な森林から産出された木材 再利用可能性向上への取組み す材料の使用回避		3.0 3.0 3.0 2.0 3.0 3.3	0.20 0.20 0.10 0.20 0.20		-	3.3
2 非	2.1 2.2 2.3 2.4 2.5 2.6 5 樂章	材料例 販体材 躯体材 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	業躯体等の継続使用 料におけるリサイクル材の使用 料以がにおけるリサイクル材の使用 引能な森林から産出された木材 再利用可能性向上への取組み 有材料の使用国鍵 簡繁を含まない材料の使用 ハロンの回避	 断熱材(天井裏、床下)	3.0 3.0 3.0 2.0 3.0	0.20 0.20 0.10 0.20		-	3.3
2 非	2.1 2.2 2.3 2.4 2.5 2.6 5 樂章	材料(の 既存する を を を を を を を を を を を を を	業態性等の総続使用 料以外におけるリサイクル材の使用 料以外におけるリサイクル材の使用 能な森林から産出された木材 再利用可能性向上への取組み 情材料の使用国避 質定含まない材料の使用 バロンの回避 消火剤 売泡剤(断熱材等)	- 一 断熱材(天井裏、床下) OOP=0,GWP=20以下の断熱材を使用	3.0 3.0 3.0 2.0 3.0 3.3 3.0 3.5	0.20 0.20 0.10 0.20 0.20 0.30 0.70 - 0.50		-	3.3
2 非 3 海	2.1 2.2 2.3 2.4 2.5 2.6 3.1 3.1 3.2	材料付 既存 類 躯体材 持 続材 有 言 り し し し し し し し し し し し し し し し し し し	策整体等の基純使用 料は忘計が5リケイクル材の使用 科以外におけるリサイクル材の使用 能な森林から度出された。木材 再利用可能性由への取組み 材材の使用国連 預定含まない材料の使用 「水力」の回避 「入売期 「入売期 「入売期 「入売期 「大力」 「大力 「大力」 「大力 「大力」 「大力」 「大力 「大力」 「大力 「大力」 「大力 「大力」 「大力 「大力」 「大力」 「大力 「大力」 「大力 「大力」 「大力 「大力」 「大力 「大力 「大力」 「力」 「力 「力」 「力力 「力力 「力力 「力力 「力	OOP=0,GWP-20以下の断熱材を使用	3.0 3.0 3.0 2.0 3.0 3.3 3.0 3.5 - 4.0 3.0	0.20 0.20 0.10 0.20 0.20 0.30 0.70 - 0.50 0.50	-	-	3.3
2 非 3 海 1 油 2 油	2.1 2.2 2.3 2.4 2.5 2.6 7 操 1 3.1 3.2	材料付担 既存 体 を を を を を を を を を を を を を を を を を を	塗築総本等の継続使用 料におけるリケクル材の使用 利以外におけるリケイクル材の使用 利以外におけるリケイクル材の使用 海利用可能性向上への取組み 有材料の使用国理 現を含度なり料料の使用 アハロンの回程 「別火剤 東急剤(断熱材等) 冷線 ・の配慮 の配慮 の配慮 の配慮 の配慮 の配慮 の配慮		3.0 3.0 3.0 2.0 3.0 3.3 3.0 3.5 - 4.0 3.0 - 3.9	0.20 0.20 0.10 0.20 0.20 0.30 0.70 - 0.50 0.50 0.33	_	-	3.3 3.9
1 水 2 非 3 第 3 5 3 1 1 2 地	2.1 2.2 2.3 2.4 2.5 2.6 (分類) 3.1 3.2 2.8 2.8 2.8 2.8 2.8 2.8 2.8 2.8 2.8 2	材料の存在を持つである。 おり、おり、おり、おり、おり、おり、おり、おり、おり、おり、おり、おり、おり、お	接駆体等の無熱使用 料はおけるリヤクル林の使用 料以外におけるリサイクル林の使用 再利用可能性的上への取場み 持有料の使用国際 現を含まない材料の使用 人の回避 用水剤 免油剤(断熱材等) 冷族 の配慮 砂配慮 強弱した 砂配慮 強弱した 砂配慮 強弱した 砂配慮 強弱した 砂配慮 強弱した 砂配慮 強弱した 砂配慮 強弱した 砂配慮 強弱した 砂配慮 強弱した 砂配慮 砂配慮 砂配慮 砂配慮 砂配慮 砂配慮 砂配慮 砂配慮	OOP=0,GWP-20以下の断熱材を使用	3.0 3.0 3.0 2.0 3.3 3.0 3.5 - 4.0 3.0 - 3.9 3.0 3.0 3.0	0.20 0.20 0.10 0.20 0.30 0.70 - 0.50 0.50 0.33 0.33 0.25 0.50	-	-	3.3 3.9
1 水 2 非 3 第 3 5 3 1 1 2 地	2.1 2.2 2.3 2.4 2.5 2.6 (分類) 3.1 3.2 2.8 2.8 2.8 2.8 2.8 2.8 2.8 2.8 2.8 2	材料存体は対応を持続する。対象を対しては、対象を対しては、対象を対しては、対象を対しては、対象を対しては、対象を対しては、対象を対しては、対象を対しては、対象を対しては、対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対	楽築経年等の継続使用 料は忘計63リケイのル材の使用 料以时におけるリサイクル材の使用 再利用可能性的上への取場の 持有勢の使用国際 現を含まない材料の使用 ・ハロンの回避 用火剤 発泡剤(断熱材等) ・冷媒 ・の配慮 シ配慮 ・受配慮 ・受配慮 ・プロの食荷柳制 雨水排火負荷低減	OOP=0,GWP-20以下の断熱材を使用	3.0 3.0 3.0 2.0 3.0 3.3 3.5 - 4.0 3.9 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	0.20 0.20 0.10 0.20 0.30 0.70 - 0.50 0.30 0.33 0.33 0.25 0.50 0.25	-	-	3.3 3.9
1 水 2 非 3 第 3 5 3 1 1 2 地	2.1 2.2 2.3 2.4 2.5 2.6 (分類) 3.1 3.2 2.8 2.8 2.8 2.8 2.8 2.8 2.8 2.8 2.8 2	材料存列を持続する。 1 2 3 外職化・競技・ 2 3 外職化・ 2 3 3 4 3 4 3 4 3 4 3 4 3 4 3 4 3 4 3 4		OOP=0,GWP-20以下の断熱材を使用	3.0 3.0 2.0 2.0 3.0 3.3 3.3 3.0 3.5 - 4.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3	0.20 0.20 0.10 0.20 0.30 0.70 - 0.50 0.50 0.33 0.33 0.25 0.25 0.25 0.25	-	-	3.3 3.9
2 非 3 万 3 万 3 万 3 万 3 万 3 万 3 万 3 万 3 万 3	2.1 2.2 2.3 2.4 2.5 2.6 3.1 3.2 2.1 2.2 2.3	材既驱駆持部間有フロー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		OOP=0,GWP-20以下の断熱材を使用	3.0 3.0 3.0 2.0 3.0 3.3 3.0 3.5 - 4.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3	0.20 0.20 0.10 0.20 0.30 0.70 - 0.50 0.50 0.30 0.33 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25	-	-	3.3 3.9 3.0
2 非 3 万 3 万 3 万 3 万 3 万 3 万 3 万 3 万 3 万 3	2.1 2.2 2.3 2.4 2.5 2.6 3.1 3.2 2.1 2.2 2.3	材既驱驱排物 特部 有 フロー 2 3 3 4 4 6 音 1 2 3 3 4 4 6 音 1 2 3 3 4 4 6 音 1 2 3 3 4 4 6 音 1 5 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6		OOP=0,GWP-20以下の断熱材を使用	3.0 3.0 3.0 2.0 3.0 3.3 3.3 3.3 3.0 3.5 - 4.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3	0.20 0.20 0.10 0.20 0.30 0.70 - 0.50 0.50 0.33 0.25 0.50 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.33		-	3.3 3.9 3.0
1 水 2 非 3 万 1 2 地 3 周	2.1 2.2 2.3 2.4 2.5 2.6 3.1 3.2 2.1 2.2 2.3 3.1 3.2	村既驱驱持部資富可以 有可以 大温地域 大温地域 大温地域 全部 大温地域 全部 大温地域 全部 大温地域 全部 大温地域 全部 大温地域 全部 大温地域 全部 大温地域 全部 大温地域 全部 大温地域 大温地域 全部 大温地域 全部 大温地域 大祖 大祖 大祖 大祖 大祖 大祖 大祖 大祖 大祖 大祖		OOP=0,GWP-20以下の断熱材を使用	3.0 3.0 3.0 2.0 3.0 3.3 3.3 3.0 3.5 4.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3	0.20 0.20 0.20 0.20 0.30 0.70 0.50 0.50 0.33 0.33 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25		-	3.3 3.9 3.0
3 海流 3 海流 3 河 3 河 3 河 3 河 3 河 3 河 3 河 3 河 3 河 3	2.1 2.2 2.3 2.4 2.5 2.6 3.1 3.2 2.1 2.2 2.3	材既躯躯持動者フロー 1 2 3 3 4 5 2 3 3 4 5 2 3 3 国 1 2 3 3 国 1 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	接続体等の機械使用 料以付に対すりサイクル材の使用 料以付に対すりサイクル材の使用 料以付に対すりサイクル材の使用 材料の使用 前利用可能性向上への取組み 材料の使用 所列用可能性的上への取組み が対象の使用 発光剤(原生) 東治剤(所)	OOP=0,GWP-20以下の断熱材を使用	3.0 3.0 3.0 2.0 3.0 3.3 3.0 3.5 - 4.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3	0.20 0.20 0.10 0.20 0.20 0.30 0.50 0.50 0.33 0.25 0.50 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25		-	3.3 3.9 3.0
3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	2.1 2.2 2.3 2.4 2.5 2.6 3.1 3.2 2.8 2.8 2.8 2.8 2.8 3.1 3.2 3.1 3.2 3.1 3.2	材既躯躯持部関有フロー 2 3 環境化・ 2 3 環境化・ 2 3 環境化・ 2 3 電景騒音・ 1 2 3 電景 1 2 3 電景 1 2 3 電影 1 2	接続体等の機械使用 科以には16分リイクル材の使用 科以には16分リイクル材の使用 科以には16分リイクル材の使用 科材的人使用 現在 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18	OOP=0,GWP-20以下の断熱材を使用	3.0 3.0 2.0 3.0 2.0 3.3 3.0 3.5 - 4.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3	0.20 0.20 0.20 0.20 0.30 0.70 0.50 0.33 0.33 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.33		-	3.3 3.9 3.0

建物名称 *東横INN熊本空港*

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

熊本県重点評価結果						総合評価点	
重	点事項		_{郭岳} 重点事項				
	重点項目(配慮	教項目)	スコア	重み 係数	評価点	重み係数	評価配点
1	〕温室効果ガス排出量削減の推進						
	Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05			
	Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
	Q1-3.2.1	昼光制御	2.3	0.05			
	LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	4.5	0.15	87.7	0.40	35.08
	LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
	LR1-3	設備システムの高効率化	4.4	0.30			
	LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
	LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
2	② 安全安心で暮らしやすい社会の実現						
	Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
	Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25	62.5	0.20	12.50
	Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15	02.5	0.20	12.50
	Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
	LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
3	県の地域資源	の有効活用と保全					
	Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
	LR2-1.1	節水	3.0	0.30	72.5	0.20	14.50
	LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	4.0	0.20			
	LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
4	循環型社会の						
	Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
	Q2-3	対応性·更新性	2.6	0.30	71.9	0.20	14.38
	LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10	71.8	0.20	14.30
	LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
	LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点×各重点事項の重み係数)の総和 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①~④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア×各重点項目の重み係数)の総和×(5/4)×20

※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4)×20:スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数

印刷:モノクロ 設定済み ・適宜、箇条書き等で記入してください。

·キーボード操作: 改行の際は【Alt】キー&【Enter】キーで次の行に進みます。

	・十一小一ト操作: 改行の除は <u>IAIt オー&[Enter オー</u> で次の行に進みます。
	計画上の配慮事項 ※必ず、何らかのコメントを記入してください。
総合	・道路からセットバックし、周囲に圧迫感を与えない計画としており、景観に配慮した落ち着きのある色彩の建物としている。 ・電灯設備のLED採用、ホテル給湯設備についてはヒートポンプ給湯器を採用することで省エネルギー、CO2削減につながる計画としている。
Q1 室内環境	 ・内装仕上げ材にはF☆☆☆☆を使用することで化学汚染物質による空気の汚染を防いでいる。 ・共用部を禁煙とし喫煙可能な客室を階で分けることで非喫煙者が煙に曝されないようにしている。
Q2 サービス性能	・各居室にGbitクラスのブロードバンドが利用可能な環境を整備している。
Q3 室外環境 (敷地内)	特になし
LR1 エネルギー	・外壁にロックウール(t100)、屋上天井にポリスチレン板(t50)の断熱材を使用し、建物外皮の熱負荷抑制をおこなっている。 ・照明についてはLEDを採用し、給湯設備にヒートポンプ給湯器を採用することで省エネルギーに配慮した。
LR2 資源・マテリアル	・井水を利用することで上水使用率の低減を行っている。 ・発泡剤を使用しない断熱材や、GWP値の低い断熱材を採用した。
LR3 敷地外環境	・時間に応じて照度が変わる計画とし、省エネルギーへ配慮した。
その他	特になし